



学校運営協議会だより

市川市立第四中学校
第1号
令和4年5月26日

学校運営協議会は、地域・家庭・学校が一体となり、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を推進するための組織です。

第四中学校は、平成29年度より学校運営協議会を設置し、本年度で6年目を迎えます。

今年度は、5月16日（月）に第1回学校運営協議会を開催しました。委員12名のうち11名が出席し、学校運営の方針について協議をしました。

□ 令和4年度学校運営の基本方針についての協議と承認

学校だよりで詳細をお知らせしております「学校経営方針」について、校長より説明がありました。

学校教育目標

「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

～多様性を認め合える、穏やかな教育環境(居場所)づくり～

<校長より>

○前年度に引き続いての学校教育目標だが、それを具現化するためのキーワードとして「多様性」「居場所」という言葉を入れた副題をつけた。

○多様性について

- ・生徒がそれぞれの個性を認め合えるようになってほしい。本校を卒業して社会に出たときに、互いを尊重しあいながら、一人一人の長所を生かして活躍してほしい、と考えている。
- ・人権教育の一環として、授業中は性別を問わず、「さん」付けで生徒を呼ぶことにした。時と場に応じたコミュニケーションの取り方を考えていく。
- ・校則等の見直しを生徒の意見を取り入れながら検討していく。

○穏やかな教育環境（居場所）づくりについて

- ・思春期である中学生にとって、悩みを打ち明けられる人がいることや、ホッとできる場所があることは大切である。学校だけではなく、家庭や地域などのそれぞれの場所で居場所をつくりたい。
- ・子供たちを地域で活躍させたい。コロナ禍で地域での活動は難しいのだが、その中でも地域のためにできることを考えさせていきたい。

<委員からの主な意見と学校の考え>

- ・小学校では「さん」付けで呼ぶようにしている学校が多い。
- ・生徒全員を「さん」付けで呼ぶのは良いことだが、先生との距離が遠くなってしまったように感じる生徒もいるかもしれない。
→まずは授業の中で「さん」付けをするようにする。雑談や部活動の中では、親しみをこめて、あえて「さん」付けで呼ばないこともあると思う。
- ・生徒のためになる取組を多く行ってもらっており、ありがたい。しかし、コロナ対応やICT活用など新しいことが入ってきて、先生の業務が増えてしまうのが心配である。
→穏やかな心と健康な状態で生徒と接するためにも、教職員の働き方改革（業務の改革・削減・縮小）を積極的に行う。また、ICTは導入されたばかりで、活用の仕方を教職員も習得しているところである。慣れていくにしたがって、授業改革・業務改善にも役立てられると考えている。
- ・生徒の多様性を認めることは、生徒が好きなことばかりを好きなようにやることにつながるのか。
→義務教育である中学校の中なので、けじめは必要である。学校生活のきまりそのものや意義などを生徒に考えさせたい。家庭の協力や意識改革もお願いしていきたい。
- ・コロナで地域の行事が中止となることが多く、ボランティアの仕方などを先輩から後輩に伝える機会が減っている。今年度も以前のような活発な状態では地域行事ができないが、実施する際は中学生のボランティアを募りたい。

意見交換・協議の結果、学校運営の基本方針は承認されました。